

こどものシェーグレン病

保護者のための症状の手引き

シェーグレン病はこれまで、中高年に多い病気と思われてきました。でも、一般に考えられている以上に、こどもに多い病気なのです。シェーグレン病のおとなの患者さんとこどもの患者さんの大きな違いは、多くみられる症状の違いです。こどものシェーグレン病の患者さんも時間が経つにつれておとなの患者さんと同じような症状が見られるようになりますが、病気の最初のころはおとなの患者さんとはちょっと違った症状がみられます。

シェーグレン病とは？

シェーグレン病は、全身に影響が起こる、自己免疫疾患です。目や口のほか、いろいろな部位の乾燥症状だけでなく、強いだるさ、慢性の痛み、内臓の障害、神経の障害や悪性リンパ腫などの重い合併症を起こすことがあります。

すべてのシェーグレン病のこどもたちに起こりうる症状を下に記載しています。
最も頻度の高い症状については四角で囲み、**太字**にして掲載しています。

● 神経障害、集中力低下/記憶力低下
自律神経失調症、頭痛

● 目の乾燥、角膜の潰瘍や感染症

● 鼻の乾燥
繰り返す副鼻腔炎、鼻血

● **痛みを伴う**
耳下腺/唾液腺の腫れ

● 末梢神経炎、レイノー病

● 胃部不快感、胃内容の排出が遅れる
自己免疫性胃腸運動機能障害^{*1}

● 口腔の乾燥/刺激を強く感じる状態
(女性の患者)

● 間質性膀胱炎

^{*1}：自身の免疫によって胃腸の運動が障害される病気

● 口腔内乾燥、口内痛、虫歯、
咀嚼や会話がしにくい、味覚がおかしい

● 嚥下困難、
胸やけや胃食道逆流

● **だるさ**

● 反復性の気管支炎や間質性肺疾患、肺炎

● **関節痛、関節炎、筋肉痛**

● 血管炎、リンパ腫、皮膚の乾燥、発疹

● 原発性胆汁性胆管炎^{*2}、肝機能異常、
慢性活動性自己免疫性肝炎^{*3}

^{*2}：肝臓の中の細い胆管が壊れる病気

^{*3}：自身の免疫によって肝細胞が徐々に壊れる病気

お子さまがシェーグレン病かもしれないと思ったら、
かかりつけ医にリウマチ専門医への紹介をご相談ください。

このパンフレットは、シェーグレン財団の許可を得て日本小児リウマチ学会の
シェーグレン病ワーキンググループが翻訳しました。

Sjögren's Foundation

10701 Parkridge Blvd Suite 170, Reston, VA 20191 | www.sjogrens.org

© 2020 Sjögren's Foundation

 **Sjögren's**
FOUNDATION